

式 辞

4期生の皆さん、御卒業おめでとうございます。この佳き日に、一言、お喜びと激励とお願いを申し上げます。

諸君らは1年前も、君らの1年先輩、3期生の卒業式に列席されたと思います。その時、最後に、私が専門として地理学を研究している立場から、人生の先輩として、一言申し添えた点から始めます。

本校は、六甲山系の中腹に立地しています。

神戸大学の六甲台キャンパスは、皆さん、経験があるでしょう。本校以上の高さがあり、下界がよく見えます。普段見ている高さとは違い、同じモノが違うように見える場合があります。もっと高い場所、例えば、皆さんもイギリスに行かれた際に乗られた航空機を思い出してみてください。上空から眺めている訳で、大阪湾を含む地表面が見えてきます。地図と同じように見える、と感じた人もいるでしょう。実は、地図とは、大地の状況が真上からはどうなっているのか、を紙の上に表現しているだけで、航空機に乗って、大地を実際に上空から眺めている訳だから、地図と同じ、と感じるのは、当然なのですが。

人生も、これとよく似ている、と私は感じています。経験を積んで、高い見地に立って眺められるようになると、普段、見ていたモノが違ったように見えたりします。友人が、先生方が、言っておられることが、現時点では判らなくとも、心に留めておくと、後になって、あ、そうか、こういう意味だったのだ、と氷解することがあります。これは、自分自身が成長した証拠です。

こういう経験を今後も、どんどん積み重ねて下さい。そのような基礎力を本校は様々な機会を通じて、提供してきました。ですから、諸君らは、そういう基礎力を持っていると確信されます。そして、今後の成長も、約束されている訳です。

この「成長」に関して、さらに説明を展開させます。本校の教育は、伝統的に「協同学習」を特徴としている点で、全国でもユニークです。明日から、卒業後の進路で出会う新しい仲間とは意識が実は違う、とは、本校を離れて、初めて認識できるでしょう。私から皆さんにお願いしたいのは、中等教育学校で過ごした6年間なり、個人によっては、さらに9年間、友人と高め合って会得した能力を、言葉で説明し、新しい友人に伝えて下さい。きっとその友人は、君の言葉が新鮮に受け取れ、刺激されるだろうし、その経験は、君自身の成長に繋がります。

というのは、私自身、大学院に入ってから、地理学教室の助手に採用された先輩から叱咤激励され、時には具体的な欠点を指摘され、そんなことでは駄目だ、即刻直せ、と怒られました。この経験は私にとって初めてで、解決に向けて、具体的な方向性を探し求め、自ら見いだせて、今の大学教員の道に確実に繋がりました。先輩には感謝しています。

あの先輩があんなに能力が高いのは何故なのだろう、と前々から疑問に思っていました。その先輩は、附属住吉小学校・中学校の出身で、君たちの先輩にも当たります。その当時は高校がなかったので、県立神戸高校に進まれたことは、大学院時代に既に説明を受けて

いました。しかし、神戸大学に異動後、前身校の「協同学習」について知って、なるほど！そうだったのか！と膝を打ちました。先輩の能力は、もちろん、もともと高かったにしても、小・中学校で「協同学習」を経験され、他人の能力を的確に把握できるようになられ、私は、有益な御教示を頂戴できたのだ、と確信しました。私は、前身校の卒業生でもないのだが、先ほど紹介しました先輩を通じて、間接的に学恩を受けている、と言える訳です。

いつもの教室に戻って、本校での6年間、一緒に過ごし、励まし、互いに高まり合った友人たちと存分に交流なさって下さい。再会も期しましょう！

皆さんは、本校の卒業生で、本校にとって大事な宝です。大学に進学して、社会に出ても、本校に来てください。デジタル上でも構いません。大学生になって、本校で学んだ、このことが大いに力となった；逆に、こういう点は、大学で初めて教わって、面食らった；という体験談をお願いしたい訳です。それが、私が目指している高大連携に繋がるだろうと確信しています。進学先が神戸大学であろうと、なかろうと、構いません。神戸大学でなくとも、本校で学べた、という点は今後も続け、大学生になって初めて知った、という点で、神戸大学との協力により本校でも提供できることがあるなら、ぜひ付け加えたいと考えています。

もう一度、申します。諸君らは、本校にとって、大事な宝です。卒業後も、神戸大学附属中等教育学校のさらなる発展を目指して、どうか宜しくお願い致します。

保護者のみなさま、6年間の御協力に感謝します。本日にご出席いただきました御来賓のみなさまに対しても、御礼を申し上げます。高いところから失礼ながら、今後とも本校の発展に御協力賜りますよう、お願いして、私の式辞を終えます。

Thank you very much for your listening to my address.

(御清聴、有難うございました。)

2018(平成30)年3月1日

神戸大学附属中等教育学校長
藤田裕嗣